

## 労働図書館新着情報

## 今月の図書紹介

- |  |   |
|--|---|
| <p>①玄田有史編『人手不足なのになぜ賃金が上がらないのか』慶應義塾大学出版会 (xxi+310頁, A5判)</p> <p>現在、日本の労働問題の根幹に係わる重要な問いとして「人手不足なのに賃金が上がらない」がある。この問題は他国からも注目されており、第一線で活躍する日本の研究者に構造解明が期待されている。本書では、編者の呼びかけに応じた21名の新進気鋭の研究者が労働経済学や人事・労務管理論、社会保障論、社会学などそれぞれの専門分野から困難な問題にアプローチ。その結果、①医療・福祉産業で賃金が上昇しない一番の理由は診療報酬制度や介護報酬制度によりサービスが抑制されていることによる②「就職氷河期世代」の賃金が低いのは能力開発の機会が乏しかったため③非正規社員を意識する正社員が自らの賃上げ要求を抑制する——ことなどが浮かび上がった。</p> | <p>③大室正志著『産業医が見る過労自殺企業の内側』集英社 (205頁, 新書判)</p> <p>著者は、パソコンやモバイル機器を四六時中使用する現代人の脳は「バッテリー容量は同じなのにアプリだけ増えているスマホ状態」だとし、人類史上最も脳が疲れる生活を送っていると警告する。そのうえ、長時間労働や会社の人間関係などでストレスが加わると「コップから水があふれるように」人はうつ状態になり、最悪の場合、自殺に追い込まれる。著者は、のべ50社以上の産業医を務め、のべ数万人の会社員を診てきた経験から「自殺する社員のタイプ」「社員を自殺させる会社の問題点」などを鋭く分析。明確なのは睡眠不足を誘発する過度な長時間労働は万人の身体に悪いこと、脳の集中力が保てる時間は有限だと「認める」ことからスタートすべきだと訴える。</p> |
| <p>②バリー・シュワルツ著『なぜ働くのか』朝日出版 (198頁, 四六判)</p> <p>「なぜ、私たちは働くのか」と著者は問う。アダム・スミスは『国富論』のなかでピン工場の例を使い、細かな分業体制で、いかに効率を上げることが重要かを説き、それ以外の充実度の高い仕事は特権的だと主張。この言説は学界のみならず、経営にも大きな影響を与えてきた。しかし、著者は給与明細だけが労働の動機とはいえないケース（病院掃除、カーペット作りなど）を紹介し、「仕事に意味があると感じられることが人々を満足させている」と結論づける。いまこそ、アダム・スミスに代わる物語を育まなければならないと力説。仕事が他者の生活向上に多少なりとも貢献していると答えられるのなら、どんな職場でもやりがいを見いだすことができるようになると結ぶ。</p>                 | <p>④楠木新著『定年後』中央公論新社 (xi+221頁, 新書判)</p> <p>会社員生活も50歳を迎えるころになると、誰も「定年」を意識するようになる。社会とつながってきたという自負のある人も会社や組織を離れると、仕事や仲間を失い、孤立しかねない。お金や健康、時間のゆとりだけでは問題は解決しない。重要なのは、定年前から何らかの形で社会と接点をもっていること。だからこそ、従来の自分の経験を基に備えることが求められる。定年退職者が社会とつながるには、①組織で働く②以前の会社と関連のある仕事に就く③いままでと全く異なる生き方をする——の三つのケースが想定されるが、いずれを選択するにせよ、「報酬がもらえる」「自分の個性で勝負できるものに取り組む」の2点にはこだわったほうがいいと強調する。</p>         |

(日本十進分類[NDC]順に掲載)

## 主な受け入れ図書

(2017年6—8月労働図書館受け入れ)

- |   |   |
|---|---|
| ⑤鈴木孝嗣著「グローバル展開企業の人材マネジメント」経団連出版(126頁, A5判)              | ⑩劬田文記他著「成功する精神障害者雇用」第一法規(202頁, 四六判)           |
| ⑥加賀博著「人材組織教育総合手法」日本生産性本部生産性労働情報センター(xii+289頁, A5判)      | ⑪中沢彰吾著「東大卒貧困ワーカー」新潮社(189頁, 新書判)               |
| ⑦今野晴貴著「ブラック奨学金」文藝春秋(223頁, 新書判)                          | ⑫藤田結子著「ワンオペ育児:わかってほしい休めない日常」毎日新聞出版(215頁, 四六判) |
| ⑧難波利光他編著「雇用創出と地域・地域経済・福祉・国際視点からのアプローチ」大学教育出版(230頁, A5判) | ⑬中日新聞社会部編「新貧乏物語:しのび寄る貧困の現場から」明石書店(319頁, 四六判)  |
| ⑨立石泰則著「日本企業が社員に「希望」を与えた時代」セツ森書館(237頁, 四六判)              | ⑭中村淳彦著「絶望の超高齢社会:介護業界の生き地獄」小学館(222頁, 新書判)      |

労働図書館 <http://www.jil.go.jp/lib/index.html>

当図書館は、社会科学関係書を中心に和書138,404冊、洋書44,325冊、和洋の製本雑誌25,759冊を所蔵している日本有数の労働関係の専門図書館です。

労働関係の分野には、労働法、労働経済、労働運動、雇用職業、女性労働、パート派遣、高齢者労働、障害者労働、外国人労働、社会福祉などがあり、これらで、蔵書の半数以上を占めています。このほかにも、経済書をはじめ経営学、心理学、教育学、社会学など関係分野に及んでいます。また、和雑誌(266種)、洋雑誌(142種)、紀要(507種)、組合機関誌・紙を受け入れています。

特色としては、厚生労働省をはじめとする官公庁発行の統計類などの逐次刊行物、経団連など経営者団体の刊行物や民間研究機関刊行物、社史があり、労働組合に関しては、労働運動史、ナショナルセンターや産業別組合の大会資料などを継続的に収集しています。洋書については、特に国際労働機関(ILO)総会の議事録や経済協力開発機構(OECD)の刊行物、各国政府の労働統計書などを収集して閲覧に供しています。特殊コレクションとしては、戦前・戦後を通して歴史的に貴重な労働組合の原資料を収集、提供しています。

所在地:〒177-8502 東京都練馬区上石神井 4-8-23

開館時間:9:30~17:00

休館日:土曜日・日曜日・国民の祝日・年末年始(12月28日~1月4日)、その他

電話番号:03(5991)5032 / FAX:03(5991)5659

利用資格:どなたでもご自由にご利用できます

貸出:和書・洋書とも2週間、5冊までです

※身分証明書(運転免許証、健康保険証など)をお持ちください

レファレンス・サービス:図書資料の所在調査などのサービスを行っています

